

技術者育成へ産学官連携

愛知工科大学（安田孝志学長）を中心に、蒲郡市・幸田町と経済団体・高校が連携、企業の持続的成長を担う人材の育成を目指す「三河中央『人・モノ・地域づくり』コンソーシアム」が発足した。25日、関係者が出席、同校で設立総会を開き、体制と今後の予定などを決めた。会長には安田学長、副会長には鈴木良一蒲郡市副市長、成瀬敦幸田町副町長を選任した。



会長の安田学長（中央）、左は鈴木副市長、右は成瀬副町長

三河中央コンソーシアム 工科大と蒲郡市、幸田町など

コンソーシアムは産学官の連携組織。愛知工科大学を中心に蒲郡市、幸田町、蒲郡高校、蒲郡東高校、三谷水産高校、幸田高校、蒲郡商工会議所、幸田町商工

会、蒲郡鉄工会で構成。今後会員を増やしていく予定だ。目的は国内でも有数のモノづくりの中心地・三河地域の雇用と富を生み出している製造業を担っている技術者・人材を育成、これを通して地域づくりを進めることだ。

安田会長は設立の背景として、三河地域の製造業の現状と課題を説明。「三河地

域の製造業は企業の海外展開で三十年の間に事業所数が半減。企業の縮小は地域衰退につながる」と語った。企業の成長を担う技術者としては「最も重要なのは意欲だ。技術者の仕事に夢を持ち、困難を乗り越え夢に挑み続ける強い意欲、そして人間性、問題解決能力を合わせもった人材が求められている。特に自動車では全体像が分かる技術者、整備士が不足している。成功すれば実践的な職業教育の先例になる」と語った。

今後、コンソーシアムでは推進方針とビジョンを策定。運営委員会のもとに二

活用・地域連携を設置。「人・モノ・地域づくり」の具体案の検討、地元企業が求める人材の量や質に関するアンケート調査を実施する。人材育成部会では中高校生を対象とした技術者の仕事の「見える化」と技術者への夢を醸成する取り組み、中学および企業とつながった高校大学連携事業の提示、企業でのインターンシップを取り入れた教育プログラムを開発する。大学活用・地域連携部会では大学、短大が保有する計測・実験機器の調査と公開を進め、活用を促進、企業人向けセミナーも実施する。



発行所
蒲郡新聞社
蒲郡市旭町9番地9
〒443-0045
電話・FAX (0533) 68-2684